

令和5年度 指定管理者モニタリング票

所管課名 文化スポーツ観光交流部 文化振興課
電話番号 0835(25)2551

1 施設の概要

施設名称	山頭火ふるさと館
設置目的	郷土出身の俳人種田山頭火を顕彰するとともに、種田山頭火及び関連する人物に関する資料の収集、保管及び展示を行い、その調査及び研究に資し、もって市民の教養、文化の向上及び地域の振興に寄与するため、山頭火ふるさと館を設置する。

2 指定管理者の概要

指定管理者	名称	一般社団法人 防府観光コンベンション協会
	代表者	会長 中谷 泰
	所在地	防府市松崎町11番19号
指定期間		令和3年4月1日 ～ 令和8年3月31日（5年間）
選定方法		公募
(非公募の理由)		
利用料金制の有無		無

3 指定管理業務の運営状況

業務内容 (具体的に)	(1) 資料の収集、保管及び展示に関すること (2) 資料に関する調査及び研究に関すること (3) 地元の文化人等の顕彰に関すること (4) ふるさと館の施設の使用に関すること (5) 交流室の使用の許可に関すること (6) ふるさと館の施設等の維持管理に関すること					
組織体制	館長 1 人、館長代理 1 人、係員 4 人 合計 6 人					
労務環境	雇用や労働条件等については、労働関係法令が順守されている。					
利用状況	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	
①来館者数（単位：人）						
目 標 値	50,000	50,000	50,000	—	—	
実 績 値	21,163	21,365	26,708	—	—	
分 析	目標値は下回っているものの、様々なイベントの開催等により、開館以降の年間最多来館者数となった。					
②						
目 標 値						
実 績 値						
分 析						

4 指定管理者の業務に係る収支状況

①指定管理業務に係る収支

	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
指 定 管 理 料	29,600,000	29,600,000	29,600,000	—	—
利 用 料 金	0	0	0	—	—
そ の 他	60,540	3,604,027	10,888	—	—
収入計(a)	29,660,540	33,204,027	29,610,888	—	—
人 件 費	12,562,090	12,693,068	12,904,902	—	—
光 熱 水 費	2,852,306	3,897,240	3,460,044	—	—
修 繕 費	410,351	393,580	308,000	—	—
そ の 他	11,998,136	15,606,737	11,554,972	—	—
支出計(b)	27,822,883	32,590,625	28,227,918	—	—
収支(a-b)	1,837,657	613,402	1,382,970	—	—
分 析	人件費の増加や光熱費高騰の影響を受けつつも、収支は黒字で昨年より増加した。				

②自主事業に係る収支

	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
収入計(c)	932,251	1,034,083	1,154,727	—	—
支出計(d)	581,491	617,814	794,118	—	—
収支(c-d)	350,760	416,269	360,609	—	—
主な内容	ミュージアムショップの運営				

5 利用者満足度

調査概要	実施方法	観覧者にアンケート用紙を配布。アンケートボックスを設置。
	時期	令和5年4月～令和6年3月
	回収率	0.90%
	満足度の割合	常設展：97%、企画展：99%
対応状況		意見・要望について職員間で共有し、それらをもとに積極的に改善に取り組んでいる。

6 評価

指定管理者による自己評価	平成29年10月の開館から6年が経過し、本館は入館者が開館以来初めて25,000人を超えて、26,708人となった。これは、年に三度の企画展を始めその関連イベント、教育普及活動、交流活動や広報活動等の積極的な展開によって本館の知名度が高まってきたと受け止めている。とりわけ新たな取組として、防府団体旅行助成金制度を利用して来館された団体を対象としたちょっぴりプレゼント企画はとても好評であり、県外からも多くの来館者をお迎えすることができた。今後は、自主事業として取り組んでいるミュージアムショップにも力を入れながら、格調ある文学館としての企画・運営にさらに創意工夫を凝らし、来館者のニーズに応じた取組を展開していきたいと考えている。
市の評価	特色ある行事や数々のイベント開催、積極的な広報活動等により、前年に比べ入館者数は増加し、さらに開館以降の年間最多来館者数となっており、高く評価できる。 自主事業についても、ミュージアムショップの売上高は年々増加し、収支も黒字となっており経営努力の成果が認められる。 引き続き、施設来館者数の増加に向けた事業展開を期待する。